

令和3年度第1回小笠原諸島世界自然遺産地域連絡会議 意見対応

No.	意見	対応
1	全般	
	<ul style="list-style-type: none"> 行政側が情報を伝えているつもりでも、地域には実情が伝わっていないことが度々ある。管理機関と参画団体の間で認識に齟齬が生じないように説明いただきたい。 	<p>地域連絡会議や懇談会でポイントを絞った分かりやすい説明を心がけると共に、村民だよりや管理機関から年3回程度発行する「自然情報センターだより」等でも、最新の情報を分かりやすくお伝えします。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> アノール対策、ネズミ対策とも、いつまでも同じことを繰り返しては意味がない。性比を考慮して捕獲を進める、新技術を取り入れるなど、より戦略的に対策を実施してほしい。 	<p>防除の実施と並行して、グリーンアノールの散布型トラップの開発や、殺鼠剤のドローンでの散布等の新技術の情報収集を進め、検討会で有識者の助言を得た上で戦略的に対策を進めていきます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 小笠原は村民の意識が高いため、いかに村民を巻き込んだ仕組みを作るかが重要である。 	<p>島民に参画いただける機会を設けつつ、引き続き教育機関や島内の団体等と連携しながら事業を進めてまいります。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 今回、取り上げた事業については、地域の関心が高い事項であり、管理機関にとっても世界遺産の価値を損ないかねない大きな課題であるだろう。遺産登録10周年の節目に、これらのいくつかについて、島民からも直接質疑応答ができるような、コミュニケーションの場を設けてほしい。 	<p>世界自然遺産登録10周年を機に、小笠原の遺産地域に改めて興味を持ち、より理解を深めて貰えるよう各種の企画を実施・予定しています。</p> <p>各種事業についても、特にみなさまの関心の高い事項については丁寧にコミュニケーションを図りながら実施します。</p>
2	オガサワラシジミの保全	
	<ul style="list-style-type: none"> 管理機関の間には、諦めムードが漂っているが、島民も調査活動に参加できるようにトレーニングするなど、保全に向けてもう少し積極的に取り組む必要があるのではないか。 	<p>野生下での確認がしばらく無い状態ではありますが、引き続き、シジミの会とも連携しながら定期モニタリング調査・一斉調査・冬期食痕調査等の各種モニタリングを実施します。</p> <p>また、島民への普及啓発を継続するとともに、一般の方からの目撃情報なども随時受け付けております。</p>
3	オガサワラカワラヒワの保全	
	<ul style="list-style-type: none"> 向島以外の母島属島でもカワラヒワ対策としてのネズミ対策を進めてほしい。また、誤解が生じないように、島民も巻き込みながら進めていってほしい。 	<p>保護増殖事業検討会等において、専門家からの助言等も踏まえて対策メニューを検討しています。</p> <p>また、有志によるワークショップ等の機会において管理機関からも適宜情報を提供するなど、幅広く情報発信に努めます。</p>

4	有人島ネズミ対策	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ネズミの処分に心理的な障壁を感じてカゴ罫を設置しない人も多い。どこかで処理をしてもらえるようなシステムがあると良いと思う。 	<p>令和3年9月に実施した集落一斉防除事業において、事業期間中に限ってだが村が代わりに処分することを実施しました。一般村民からの反応はありませんでしたが、継続して周知・実施します。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・捕獲したネズミの処理に困るのであれば、役場に集めるのではなく、地区ごとにネズミの回収場所を設けてはどうか。カゴ罫を移動することにもリスクがある。 	<p>収集方法等に多くの課題があると考えていますが、集落一斉防除事業時の試行等を検討します。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・島民は日常的にネズミの被害にさらされている。今さら声を上げる人は多くないかもしれないが、被害が日々のストレスになっているのは確かである。その点は頭に入れておいてもらいたい。 	<p>島民の日常生活への影響に配慮しながら遺産管理を進めて参ります。一方で、世界自然遺産の管理に伴う島民生活への悪影響について対策を検討するためには被害の正確な情報が必要であるため、ネズミによる被害やお困り事などあれば随時お知らせ願います。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生、農業被害、希少種保全とそれぞれ対策の目標が異なるため、分野ごとに議論を進めてはどうか。目標を明確化し、分野に応じたメンバーに絞って議論することで、より具体的なアイデアが出てくると思う。 	<p>保全対象毎に被害を防止するための議論を進めます。 また、各分野で得られた被害防止に役立つ知見や情報などは分野間で適宜共有して対策を進めます。</p>